

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定 **実施結果**)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒個々の学びを深め進路実現を図る教育課程を編成し、学習意欲と学力を向上させる。</p> <p>②カリキュラム・マネジメントを推進し、協働的に課題発見・解決できるグローバルリーダーを育成する。</p> <p>③特別活動等を通して主体性、社会性、協働性、創造力等の育成を図る。</p>	<p>①指導と評価の一体化を推進し、生徒の学習意欲を向上させ、課題発見・解決能力を育成する。</p> <p>②総合的な探究の時間と各教科の連携を図り、外部資源を利用しながら課題解決能力の育成を図る。</p> <p>③学校行事や校外学習を通して企画力、社会性、協働性等を育成する。</p>	<p>①指導と評価についての研修を行い、年間指導計画及び単元と指導と評価の計画の作成並びに授業での実践に生かす。</p> <p>②問いを立てる視点と教科横断的で多角的な視野を意識させることにより、総合的な探究の時間及び各教科の連携と授業改善を図る。</p> <p>③各教育活動の目的等を適切に定め多角的に計画・実行する。</p>	<p>①指導と評価の一体化を意識した授業づくりを通して、生徒の学習意欲及び課題発見・解決能力は向上したか。</p> <p>②課題解決に向けた生徒の意識は醸成できたか。</p> <p>③特別活動等において企画力、社会性、協働性を育成できたか。</p>	<p>①指導と評価の一体化に係る研修を実施し理解を深めた。単元の指導と評価の計画を活用して生徒自身が学びの進捗を把握しやすくし、生徒による授業評価の評価項目⑩(主体的・協働的に課題解決に取り組めたか)において年間通して肯定的解答 93%(前年度比+6%)という結果を得た。</p> <p>②生徒による授業評価では「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知らなかった」という設問に91%が肯定的な評価をしており、生徒の問題解決能力が醸成されていることがうかがわれた。</p> <p>③3年ぶりに研修旅行を実施した。事前事後学習を8回行った。事後アンケートで主体的に行事に参加したと回答した生徒が多く高い結果を得ることができた。</p>	<p>①新教育課程科目が年次進行で順次開講していくことを契機に、指導と評価の一体化についての教員の理解のさらなる深化を図り、一層推進していくことが重要である。</p> <p>②コロナ禍で制限されてきた実践的な問題解決能力育成の場をさらに増やして行く必要がある。</p> <p>③研修旅行や校外学習の充実を図り、より生徒の企画力、社会性と協働性を養い、リーダーシップを育成していく必要がある。</p>	<p>①指導と評価の一体化に向けての研修を実施することで、主体的・協働的に課題解決に取り組め姿勢の向上が見られたのは評価に値する。</p> <p>②生徒自らの考えを広げ深める機会が増えており、また、問題解決能力の醸成への努力も伺われることは望ましい。</p> <p>③感染症対策を行いながら久しぶりに研修旅行が実施できたことはとても明るいニュースである。</p>	<p>①教員対象の研修会を実施し、生徒による授業評価の「主体的協働的な課題解決」の評価が跳ね上がったが、授業評価の「批判的・論理的思考及び表現」の項目が弱い。</p> <p>②「自らの考えを広げ深めること」については高評価であり生徒、教員ともにICTの活用のに慣れてきて成果が出ている。</p> <p>③事前学習8回の実施を経て4方面研修旅行を実施し生徒が主体的に研修旅行を作り上げた。</p>	<p>①「批判的・論理的思考及び表現」の項目が弱いのでグループ活動による意見交換に加え一層の工夫が必要である。</p> <p>②自己の学習についてのメタ認知や自覚的評価を学習に取り入れることにより、批判的・論理的思考力を育成し、外部資源の活用などにより多角的な思考力の育成を図っていく。</p> <p>③感染予防に継続して取り組みながら各種行事の復活を見据えた企画を計画的に進める。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>生徒指導・支援の組織的取組を推進し、たくましく生きる力の育成を図る。</p>	<p>①学校生活をはじめ、社会との関わりの中で他者尊重の心や判断力及び行動力の伸長を育む教育活動を充実させる。</p> <p>②安心・安全で意欲的に学校生活を送れるよう、教育相談体制の充実を図る。</p>	<p>①授業や部活動、学校行事等を通して主体的な取組ができたか。また、活動に充実感や自信を持つことができたか。(生徒による授業評価、学校生活アンケート)</p> <p>②積極的な情報共有と生徒個々の状況に応じたケース会議の開催などにより、学年団、SC、SSWとの連携を密にした体制を整え、組織的な生徒指導・教育相談を実施する。</p>	<p>①授業や部活動、学校行事等を通して主体的な取組ができたか。また、活動に充実感や自信を持つことができたか。(生徒による授業評価、学校生活アンケート)</p> <p>②状況に応じた会議の開催や組織的な対応ができたか。(担当者による評価)</p>	<p>①生徒主体の行事運営が行われるよう指導・支援を行った。事後アンケートで主体的に行事に参加したと回答した生徒がスポーツ大会(97.2%) 翔鷗祭(94.6%)ともに高い結果を得ることができた。</p> <p>②生徒が抱える問題に対し、状況に応じた関係職員に速やかに情報を共有する機会を設けた。また、それらの解決・改善に向けてチームとして生徒をサポートする体制を築き、連携を密にした生徒指導体制・教育相談体制・事後指導の体制の下、組織的に対応した。</p>	<p>①社会性と協働性を育成し、協働することで生徒が互いの力を発揮し、高め合える環境や場を創出していく。</p> <p>②コア会議やケース会議のような事後の組織的な対応方法だけでなく、未然防止の観点を重視した情報集約・情報共有・連絡体制をより充実させる必要がある。学校安全の観点で、防災・防犯・成人年齢・人権の諸課題等について考える機会を作り、自らを取り巻く諸問題への関心・意欲が高め、そのような機会を通して他者を尊重する精神や判断力及び行動力を醸成する。</p>	<p>①3年ぶりに予定通り実施し、生徒主体の活動ができたことは評価できる。</p> <p>②オンラインカウンセラー等の活用も取り入れるとよい。生徒が抱える問題に対して関係教員と職員が迅速に情報共有して、チームとして生徒をサポートする体制を築いていることはとても大事なことである。</p>	<p>①昨年度は活動の縮小があったが本年度は3年ぶりに行事を行えた。アンケートでも主体的に行事に参加できたことと回答する生徒が多かった。</p> <p>②校内教育相談体制の組織を図式化し周知することで組織的な支援力を高めた。課題を抱える生徒の相談件数は少ないが1件1件の内容が重くSC、SSWを最大限活用しチームでサポートできた。</p>	<p>①with コロナ、post コロナで状況に応じた行事実施を計画的に行い、行事を通して社会性、協働性を育成し高め合える環境や企画をできるだけ多く創出する必要がある。</p> <p>②未然防止の観点を重視した情報集約・情報共有・連絡体制をより充実させるため、年次団による迅速かつ丁寧な生徒把握に一層取り組む。医療機関など外部専門家につなげサポート体制に専門的視点を取り入れる。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	様々な教育活動をとおり、生徒が主体的に進路目標を定め実現していく力を育成する。	生徒の主体的な進路実現に必要な情報の提示や活動の支援を組織的に行う。	①進路行事を時期や内容を考慮し、効果的に展開し、生徒の発達段階に応じた情報の提示や支援を行う。年次団との連携を強化し、生徒に必要な進路情報や支援を行う。教科指導とも連携し、外部ツールをより積極的に活用し生徒の学力定着を図る。 ②卒業生と未来を語る会、学問を知るための講座などを通して、生徒が生涯学び続ける意欲を涵養する。進路行事後にキャリアパスポート等を活用し、生徒の変容を把握する。	①進路行事の時期や内容は進路実現に対し、効果的であったか。 ②進路行事の後で、生徒の進路実現に対する意識や態度は変化したか。	①進路説明会を各年次の生徒の発達課題に応じて内容を精査し、情報提供することができた。模擬試験は、結果の活用だけでなく事前指導も行い、意識を高めることができた。 ②各種進路行事への生徒の主体的な参加を呼びかけと出欠管理を徹底した結果、参加後の振り返りの記述やアンケートから生徒の意識の向上が見られた。	①旧課程の最後、新課程の2年目を迎える次年度は進路情報も多様化・複雑化するため、生徒保護者及び教員に対し、進路情報を整理して提供すると共に、効果的な情報提示の方法を工夫する。 ②各種進路行事へのより多くの生徒の参加を目指し、LHR等を活用して大学の出前授業等を実施していき、生徒の進路への意識を高める。卒業生と未来を語る会の準備時期を早め、在校生のニーズに対応できる分科会を用意する。	①普通科に加え舞台芸術科が設置され、幅広い進路方面に対する指導や支援の工夫を期待している。 ②各種進路行事の充実の試みは評価できるが、やはり今後多様化する生徒ニーズに対応できる柔軟な姿勢が重要になるだろう。	①オンラインを活用した進路説明会を実施し、広く参加しやすい体制を整えた。進路段階に応じた情報の提供により着実な指導につなげた。来年度舞台芸術科卒業年度であり多様化する進路への一層の対応が求められる。 ②進路行事に関しては、生徒の参加率が低い傾向にあり、今後の在り方を検討する必要がある。	①新課程、旧課程の生徒が混ざっているため内容を精査し効果的に情報を提供していく。生徒、保護者、教職員に対して学習指導や情報提供を計画的に行っていく。個々の面談等を通じて生徒に寄り添った一層の進路支援を図っていく ②進路関係各行事における生徒の参加率向上に向けて、昨年の状況把握と分析を行うとともに生徒のニーズに対応した内容であるかどうかを適宜検証する。
4	地域等との協働	①教育資源を活用し、未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する。 ②家庭、地域社会等との連携・協働により、持続可能な社会の創造を図る。	①総合的な探究の時間やグローバル行事等で外部資源を活用する。 ②少しでもコロナ禍以前の教育に還元できる活動や支援をパートナーズと連携して実現を目指してゆく。	①総合的な探究の時間のフィールドワークやミニスタディツアーなどの行事で外部との連携を図る。 ②保護者や外部の支援を活用すべく学校行事等にも積極的に参加していただき生徒が積極的に活動できるようにする。	①授業や行事を通じた外部資源の活用により、生徒の課題意識を醸成できたか。 ②学校行事等でコロナ禍以前と比較し、保護者や外部が来校できるようになり、どのような効果があったか。	①総合的な探究の時間では2年次全員にインタビュー等で外部と連携するように指導することができた。 ②運営委員会を感染防止に留意しながら対面型で実施したり、学校行事にも制限付きながら参加できるようにした。	①コロナ禍において生徒は内向き指向になりがちなので、次年度はさらに行事等で外部との連携を深めて行く必要がある。 ②コロナ禍前とまったく同じようにはいかないが保護者の活動も変化が表れているのでWithコロナの中での活動を保護者に同意を求め見直す必要がある。	①総合的な探究の時間を使って生徒がインタビュー等を通して地域社会と連携できるような試みを作ることには大事である。国際交流は貴重な経験であり訪日希望の海外生徒も多いので、交流事業を再開してほしい。	①「テーマ研究Ⅰ」では仮説を立て、外部資源を活用して課題意識の醸成と思考を深めた。 ②活動制限を徐々に緩和しながら保護者同士の情報共有や交流が広がるよう支援した。	①生徒が内向き傾向にある。異世代間交流、地域社会との協働を多様な局面で促進するとともにグローバル教育推進校として停滞した国際教育の活動の立て直しを図りたい。 ②パートナーズ(PTA)や同窓会と効果的に連携し教育活動を活性化させる。
5	学校管理 学校運営	①社会の変化に対応し、柔軟かつ迅速に教育課題に取り組む、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。 ②教育計画とのバランスを図り、教員の働き方改革を進める。	①学校運営協議会の部会の活動の活性化を図る。 ②ICT活用やホームページの充実と改善を通して、学校およびパートナーズの活動の活性化と私費の適切な還元を進めるとともに今後の年間教育計画を見直す。	①ハイブリッド開催など日程や方法の調整を行い、社会状況に合わせた開催を工夫する。 ②オンライン授業の保証や、懇談会や説明会等々の密になりやすい場面での開催方法を工夫するなど、社会変化に応じた広報の充実を図るとともに、行事の精選と私費の活用の在り方を考察してゆく。	①部会の活動を活性化させ、社会に開かれた学校作りが進んだか。 ②ICTの活用をさらに進めることで、より良い教育環境を作り出せて行ったか。	①学校運営協議会開催については2年間書面開催であったが、社会変化に対応したハイブリッド形式による開催を実施し、開かれた教育課程の実現に向けた前進となった。 ②オンライン授業や懇談会、説明会などICTを活用することが多くなり教育活動にも保護者への対応にも活用できるようになった。また、活動が制限される中での私費の活用もなされた。	①学校運営協議会における部会機能を十分に活用できていない現状であったため、今後あり方を含め協議していく必要がある。 ②他校と比較して団体徴収金が保護者の負担になっていないか30周年を控え、考えるべき時期にある。また、ICTの利便性と活用については公費と私費の区別を明確にし、さらに教育環境に生かせるように考察する必要がある。	①ハイブリッド形式による各種会議開催はもはや時代の要請となってきた。対面会議の良さを生かしつつも、参加者の便宜を図りながら新たな会議参加形式を続けて模索して行って頂きたいと思う。 ②オンライン授業やオンラインでの説明会、懇談会など情勢に応じた教育活動を展開していく	①学校運営協議会委員にテーマ研究発表会や舞台芸術科発表会を見学していただき評価や助言をいただくことにより開かれた学校教育を考える貴重な機会となった。 ②ICTの活用により打合せや情報共有の在り方等業務の効率化が進んだ。HP作成、私費活用の在り方や整理には課題が残った。	①学校運営協議会について計画的かつハイブリッド方式の開催を進め積極的な協議の場になるよう努めるとともに本校の教育活動について多角的かつ専門的な視点から助言いただき活動内容の充実を図る。 ②学校広報の要であるホームページの刷新を図り本校の取組を積極的に発信する。私費会計の適正な処理と活用でより良い教育環境を作り出していく。